

報告者 部会長 ものづくりスペースみんななかま 竹内 仁

日 時 2013年6月6日(水)

場 所 城陽市福祉センター 第2会議室

出席者 就労促進授産支援ネットワーク(1名)、宇治支援学校(2名)、あんびしゃ(1名)、あっぷ(1名)
城陽作業所(1名)、野の花(1名) みんななかま(3名) (参加者数10名)

オブザーバー

欠席者 福祉課(1名<オブザーバー>)

検討課題

1、福祉情勢・就労に関わる情報の共有。2、福祉事業所フェア実施に向けて、3、2013年度就労部会の取り組み

【議事録】

1、福祉情勢・就労に関する情報の共有

今年度より施行した障がい関係法律と、現在行われている通常国会で審議されている障がい関係法律について資料(別紙)に基づいて共有。

2、福祉事業所フェア実施に向けて

・福祉事業所フェア要綱(別紙参照)の確認。

*要旨

①実施日と場所の確認:2013年9月10日(火)10時~12時、城陽市福祉センターホール

②実施内容の確認:今回も第1部に企業の方の講演を実施。前回の「障がいのある人と一緒に働くことによって、職場の雰囲気が変わるし、一緒に働く人たちも変わる、そして地域も変わっていく」といった講演内容がとてもよかったと、参加者から多くの声があった。第2回の講演もそれをならい、今回は、企業就労の事例情報が少ない、知的の障がいのある人を主に雇用されている企業に講演依頼していくことで確認。(他の就労部会は、精神の障がいのある人の実践例が多い)

第2部は、新企画として、企業就労している障がい者と、企業就労を目指している障がい者からの思いや、願いを発言してもらおう。また、今年度も福祉事業所ブースを設置し、「家族と事業所職員が対談できる場」「事業所同士の情報共有をできる場」を設ける。

③参加者の呼びかけ範囲を広げる(近隣地域の就労部会、城陽市内の福祉団体等)

3、2013年度の取り組みとして

・企業就労を目指している障がい者の事例検討。その事例に基づいた企業との連携。

*就労支援相談所が行う相談の、7割が精神の障がいのある方。他市の就労部会でも、精神の障がいのある方の事例検討が多い。知的の障がいのある方は施設と繋がっていることが多い。

*部会では、当面は知的障がい者の就労を中心に事例検討を進めていく。

*部会での事例検討に基づいて、部会に参加している事業所職員が、働くことのイメージ、更に企業就労へのイメージづくりにつなげていく。(本人<特に、知的の障がいのある方は幅広い就労経験が弱い>・家族・職員等がイメージをもつことを柱に取り組んでいく)

*事例検討の様式を作成し、各事業所・学校に記入してもらおう。次回の部会で検討。次回の就労部会には企業の方(中小企業家同友会)も参加していただける予定。